

鉄道と美術の150年

東京ステーションギャラリー（東京駅） 22.10.08～23.01.09



日本の鉄道は、1872(明治5)年に新橋～横浜で開業して、今年は150周年となるが、奇しくも「美術」という語が初めて登場したのも同じ年である。

鉄道と美術は、日本の近代化の流れに寄り添い、時にはそのうねりに翻弄されながら150年の歳月を歩み続けてきた。本展覧会は、“鉄道と美術150年の様相”を、鉄道と美術史はもちろんのこと、政治、社会戦争、風俗などさまざまな視点から読み解き両者の関係を明らかにしている。

展示品は、全国40か所から集めた「鉄道美術」の名作、話題作、問題作「約150点」が、一同に揃う東京ステーションギャラリー渾身の催事である。

「河鍋暁斎」の想像力が炸裂する『地獄極楽めぐり図』より《極楽雪の汽車》、近年発見され話題となった鉄道構造物を描いた「小林清親」の《高輪牛町籠月景》や「歌川広重」(三代)の《横浜海岸鐵道蒸気車図》が見物である。

